

心の教室だより



11月号

一宮市立中部中学校 心の教室
スクールカウンセラー
スクールカウンセラー
心の教室相談員

こころの豆知識



みなさんは、友達とドラマやアニメ、映画、漫画などについて話をしているときに、意見が合わなかったり、感想が全く違っていたり…という経験をしたことはありますか？「同じものを見たり、読んだりしたはずなのになんでだろう？」そんなふうに首を傾げる人もいるかもしれません。

人は、自分の感じたことや考えたことに対して、「誰だってそう思うよね」「これが一般的な考えだよね」など、それらが自分以外の大多数の人たちにも共通する答えであるかのように思うことがあります。

しかし捉え方や感じ方、考え方は人それぞれ。全く正反対の人がいれば、同じように見えても実は違っていることもあります。

それは普段、私達が何気なく使う言葉や仕草・行動にも同じことが言えます。自分がこめた意味と、全く同じ意味で相手が受け取っているとは限りません。自分が冗談のつもりで言った一言や行動が、相手を傷付けてしまうこともあるのです。

自分の言葉や行動に“**どんな意味をこめるか**”はとても大切なことですが、“**相手がどんなふうに受け取るか**”ということはそれ以上に重要です。自分の思いとは違う意味で相手が受け取ってしまったとき、「そんなつもりじゃなかった」は理由になりません。自分にとっての「大丈夫」が、相手にとって「大丈夫」とは限らないのです。

言葉や仕草、行動は、人と人とがつながるための、とても大切なコミュニケーションのツールです。しかし、その使い方を間違えてしまうと、人の心を傷つけることもあります。だからこそ、みなさんには思いやりをもって正しく使ってもらいたいと思います。友達と一緒に過ごしている時、自分の話やふるまいに対して友達はどんな表情をしているのか、少し意識を向けてみると何か気づくことがあるかもしれないですね

